

令和4年度第3回滋賀県総合教育会議(次期教育大綱関係)の結果について(報告)

令和4年度第3回滋賀県総合教育会議において、次期「滋賀の教育大綱」について協議を行った。

日 時 令和4年11月11日(金) 10:00-12:00

場 所 滋賀県庁北新館5 A会議室

出席者 三日月知事(Web)、大杉副知事、福永教育長、土井委員、岡崎委員、  
窪田委員(web)、野村委員、石井委員(web)、ゲストスピーカー3名(議事(2)関係)

議 事

(1) 次期「滋賀の教育大綱」について

次期「滋賀の教育大綱」骨子案について協議が行われた。

(2) 子どもと教職員の笑顔あふれる学校づくりについて

【議事(1)における出席者からの主な意見】

(1)基本目標、サブテーマ、全体的な方向性について

- ① 「全体的な方向性」に掲げる4項目をどのように整理して、一つのストーリーとしてまとめるのか考えていくべき。4項目には「相手」と「自分」、そして一人ひとりと全体の「幸せ」の要素があり、どのようにつなげていくのが大事。
- ② 愛は、不易流行の観点からも最も大事な価値観。友達への思い遣りとか、心を作る素晴らしさとか、基本的な人間関係を形成する資質を育むことで、社会に出てからも人間関係を育んでいける。
- ③ 子どもたちが家族など相手と思い合って育つことは微笑ましく、家族や地域の方々などに感謝が伝えられるような子どもを育てるべき。「全体的な方向性」に示すように、まずは相手を知ること、思い遣ることからしっかり教育していくべき。
- ④ 自尊感情とも関連するが、まずは、自分に対する愛が大事ではないか。自分に愛情を持たないと、人に愛情を向けることは難しいのではないか。

(2)各施策について

- ① 困難を抱える子どもたちの自尊感情を育むに当たっては、サポートのシステムにロールモデルとなる人材に参画いただき、子どもたちとの対話などを通じて、困難を抱えながらも社会でしっかりと役割を担っている姿を見せることが重要である。
- ② 運動をする子としない子の二極化は由々しき課題であり、教育的観点から、体を動かす喜びをどのように経験させていくかが大事になっている。
- ③ ESDの流れも踏まえ、子どもたちの視野の拡大などに資するよう、企業等との連携を積極的に展開してほしい。

- ④ 「部活動の適切な運営」はもう少し補足した方がよいのではないか。
- ⑤ 幼稚園等から小学校、中学校と接続されて、すくすくと育てていくことが大事であり、就学前の教育を重点的に進めてほしい。
- ⑥ 地域全体で就学前から家庭の事情を見ていけるような、誰一人取り残されない教育に重点的に取り組むのがよい。
- ⑦ 困難を抱える子どもたちを含めた、学びの基盤をどのように支え、学校のあり方をどのように考えていくのかという視点が重要。
- ⑧ 計画内容の実現を図るに当たり、市町ごとの濃淡や課題解決力の差を県としてしっかり捉え、支援に取り組んでいくのか考えていく必要がある。モデル事業も、事例集が市町や学校の足腰を強くするために活用されたか見直すだけで違ってくる。市町、福祉分野等も含めていく“巻き込み力”や、授業づくりの面から見直しを図ることも大事。
- ⑨ 家庭の教育力は大事だが、あまり強調するとしんどい世帯もあると思う。滋賀県らしく、包み込むような言い方ややり方があるとよい。